

大門だより

No. 8
(434号)

荒川区立大門小学校
校長 野澤 一代
令和2年 11月 2日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

随時更新中！

「寒さ到来」

校長 野澤 一代

11月、霜月。その名のとおり、霜が降りる月だから霜月。「食物月（をしものつき）」その年の収穫を感謝する月が省略されたという説もあります。他に「神楽月（かぐらづき）」神様に舞や歌を奉納する、10月に日本各地の神々が出雲大社に出掛け、その神々が帰ってくるから「神来月、神帰月（かみきづき）」とも言われています。

そんな寒さに向かうこの時期は、「障子襖を入れる」時期となります。「障子襖を入れる」とは、夏の間、取り外していた障子や襖を入れること。簾などは片付けられ、秋らしい趣になるという秋の季語ですが、時代に合わせると「インフルエンザと新型コロナウイルスに備える」になるかもしれません。例年ですと、インフルエンザの予防接種に行かれる方も多いのではないのでしょうか。また、「手洗い、うがいの励行」を学校では常々指導する時期でもあります。今年はこれに加え、新型コロナウイルス対策…。しかし、考えてみれば「手洗いの励行」は今まで通りです。3密を避け、マスクをする。換気に気を付け、教室は消毒する。児童は、風邪気味なら医者にかかる。今年6月から始まった学校の呪文のような合言葉です。継続は力なり。続けていくことが、何よりも備えになります。

まさに、継続は力なりのお話です。今月は、「躰」について書きます。

先日の全校朝会で、「あいさつ」の話をしました。6月より時々触れてきた話題です。「挨拶をしよう」と6年生が全校児童に呼び掛けてくれた時期もあります。挨拶をすることは、基本的な生活習慣の一つです。「おはようございます」から一日が始まり、「いただきます」「ごちそうさま」「行ってきます」「ただいま」「ありがとう」「ごめんなさい」「おやすみなさい」。人として生活するうえで、挨拶はとても大切な習慣です。「躰」とは、礼儀作法をその人の身に付くように教え込むことという意味があり、「教える」「教育」とは少し違うニュアンスがあります。「躰」は「身に付けさせる」、教育は「能力を伸ばす」ことに重きを置いています。でもどちらも「継続は力なり」です。

大門小学校の子供たちは、「校長先生は、本気で挨拶ができる子を育てたいと考えているようだ。」と感じ始めました。朝の挨拶だけではなく、廊下ですれ違ったら、「こんにちは」や会釈をしてくれる児童まで増えてきました。そんな中に、どんなにこちらから「おはようございます」と声を掛けても、知らん顔をして通り過ぎる子もいます。「何か悩んでいるのかな？」と心配になります。

保護者の皆様は、自分のお子さんが外でどのように挨拶をしているかなかなか分かりませんよね。そうです。算数を理解しているかはテストの結果や宿題の様子で分かります。「躰」の結果は、社会で発揮されていくものなので、保護者の目からは気付きにくいものです。挨拶や返事のよい子、笑顔の人に向けられる子は人から愛されます。人間関係作りの入り口は広いに越したことはありません。

「継続は力なり」。一緒に子供たちを育てていきましょう。

